

レバンテタイムズ サマリー SUMMARY

世界は、甘くなかった。だから強くなれる。

ウズベキスタン遠征 Grand Prix Jizzakh

想定外の連続を乗り越え、世界で得た確かな手応え。

6月18日・19日、レバンテフジ静岡はアジアツアー「Grand Prix Jizzakh」(ウズベキスタン・ジザフ)に参戦。今シーズン初となる海外遠征で、世界の強豪たちと真向から渡り合った。

初日は154kmのロードレースとしてスタートしたが約70km地点で安全確保が困難と判断されレースは中止に。警察の先導でスタート地点に戻った後、急遽市街地に設けられた3kmの個人タイム

サルマ寛大選手、5位入賞！

北アルプスを望む長野県大町市で開催された「第1回 大町温泉郷ロードレース」に出場。大町温泉郷を発着点とする1周12.9kmの周回コースは、アップダウンとテクニカルなコーナーが続く難コースで、選手の脚力とレース運びが勝敗を左右する。2026シーズン前半戦最後の一戦で、レバンテフジ



現地ファンに囲まれるサルマ選手と瀬川選手

翌日の第二ステージは127kmのロードレース。気温35℃を超える暑さのなか、UCIプロチーム所属選手を擁する地元ウズベキスタン勢を中心に、スタート直後から激しいアタック合戦が繰り広げられた。サルマ選手は決定的な逃げ集団へあと一歩まで迫りながら惜しくも加われず、チーム最高位となる18位でフィニッシュ。山口選手も有力選手のアタックに何度も反応し、夏目選手、瀬川選手、植山選手も連携しながら最後まで積極的なレースを展開した。目標としていた総合上位進出には届かなかったが、世界レベルの高速レースで得た経験は大きな財産となった。



二戸GMの遠征 こぼれ話

「予定どおりに進まない。 それが海外レース」

今回のウズベキスタン遠征では、レース以外にも日本では考えられない出来事が次々と起こりました。チーム代表の二戸GMに、公式SNSやホームページでは伝えきれなかった「遠征の裏話」を聞きました。

レースが急遽変更

「もともとは初日が市街地クリテリウム、2日目が山岳コースという予定でした。でもレースの約1週間前に、山岳コースが平坦コースへ変更になったんです。」さらに初日は交通規制が十分に機能せず、クリテリウムは中止。各チームのマネージャーによる緊急ミーティングの結果、3kmの個人タイムトライアルへ変更されるという異例の展開となりました。

「道路脇には馬やロバが歩いていて、選手が動物を避けながら走る場面もありました。日本ではまず考えられない光景でしたね。」

遠征準備は大仕事

「国際免許だけでは運転できないので現地ドライバーを手配し、自転車の持ち込み料金がかからない航空会社も探しました。」

前日の試走では瀬川選手が宿から約10km先でパンク。英語もほとんど通じない土地でしたが、位置情報を共有していたため無事に合流することができました。

最大の敵は、食事？

「現地の料理が口に合ったのは瀬川選手とサルマ選手くらい。ほかの選手やスタッフはスーパーでパンやヨーグルト、果物を買って食べていました。」生水も飲めない環境で体調管理は難しく、滞在中にはお腹を壊す選手も。一時はトイレトペーパーが貴重品になり、帰国後まで含めるとメンバー全員が胃腸炎を経験しました。

「来年は炊飯ジャーとIHヒーターを持って行こう、と本気で話しています(笑)。」

それでもまた、走りたい

苦勞の多い遠征でしたが、選手たちは口をそろえて「また出場したい」と話します。

「特にサルマ選手は『本当に楽しかった』と言っていました。広い道路でダイナミックなレースができるのは、日本とはまた違った魅力があります。」

一方で、趣味でロードバイクに乗る人はほとんど見かけなかったそう。

「これからサイクルスポーツがどう発展していくのか楽しみです。」

予定どおりには進まない海外遠征。それでも、その経験のすべてがチームを成長させ、次の挑戦への大きな糧となりました。世界を舞台に走ることで得られる経験は、レースの結果だけでは測れない大きな財産になっています。

レバンテの裏話

たけうち りょう コーナー
竹内 遼 選手



今回は、今シーズン新規加入の竹内選手。実は専門はロードレースではなく、マウンテンバイク(MTB)です。「ロードレースを経験することで、MTBでもさらに強くなれる」と考え、レバンテに加入しました。

その挑戦は早くも結果につながり、7月20日に開催された全日本マウンテンバイク選手権大会で見事3位入賞！

次は、レバンテのユニフォームで表彰台へ！

そんな期待を込めて、これからの竹内選手の活躍にもぜひご注目ください！



チイキ×レバンテ

静岡県警察交通安全広報大使に！



7月10日、静岡市・駿府城公園で開催された「夏の交通安全県民運動出発式」において、レバンテフジ静岡は静岡県警察本部長より「静岡県警察交通安全広報大使」を委嘱されました。自転車ロードレースチームとしての発信力が評価され、チーム全体で交通安全啓発活動を行うこととなりました。式典では、チームを代表して二戸GMが委嘱状を受け取り、夏目選手が交通安全への決意を表明。山口選手は交通安全県民運動の出発号令を務めました。

式典後は、静岡市内の商業施設「新静岡セノバ」で静岡県警の皆さんとともに街頭啓発活動を実施。買い物客や駅利用者へ、自転車の交通ルールの遵守やヘルメット着用の大切さを呼びかけました。今後も、自転車ロードレースチームだからこそ伝えられる視点を生かし、自転車交通安全の普及・啓発活動を通じて、地域の皆さまとともに交通事故のない安全・安心なまちづくりに貢献してまいります。



出発号令の大役を見事務めた山口選手



富士まつりで発見！

入荷待ちとなっていたレバンテキャップが、富士まつりで販売再開！会場では、レバンテキャップやTシャツを身に着けてくださるファンの皆さんにお声がけし、記念にスナップ写真を撮らせていただきました。

いつも温かい応援、本当にありがとうございます！



限定2個のオレンジキャップは即日完売。黒も残りわずか！

『私たちはレバンテフジ静岡を応援しています』 ※他 スポンサー様30社以上

CORELEX

MERIDA

MIYATA

ENOMOTO

Jatco

OKITSURASEN

森川建設

FUJI RINGU MADE

A アイワマネジメント

トヨタエナティッド静岡

青森県人

山山法律事務所

ほこ36フーズ

富士市

・レバンテフジ静岡は、法人、個人を問わず、チームの成長と活動を応援いただけるスポンサー様を広く募集しております。
・キッズ自転車教室やサイクルロードレースに関するトークショーなどのイベント、セミナー、公演、メディア出演などのご依頼を常時受け付けております。

共闘

パートナー紹介

レバンテフジ静岡を支える、挑戦の仲間たち。

レバンテフジ静岡は、多くの企業・団体の皆さまに支えられ、地域とともに挑戦を続けています。このページでは、チームの活動をともに支えてくださる「共闘パートナー」をご紹介します。



コアレックス信栄株式会社

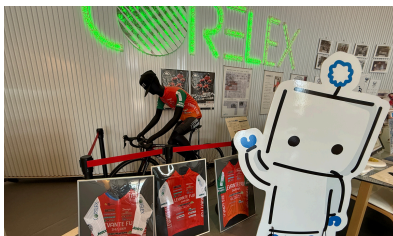
会社HP

詳しくはこちら▶



紙から、未来を作る。

使い終わった紙が、
もう一度地域を支える。



エントランスにはレバンテグッズが展示されています

独自の古紙再生技術を活かして、トイレトーパーやティッシューパーなどの衛生用紙を製造するコアレックス信栄株式会社。牛乳パックや紙コップ、ラミネート紙、さらにはホットキス付きの機密書類まで再資源化できる独自技術で、循環型社会の実現に貢献しています。「紙の地産地消」という考えのもと、地域で回収した古紙を地域で使う紙製品へと生まれ変わらせる仕組みを構築。製造工程で発生する副産物も燃料や資材として活用し、資源を最後まで無駄なく使い切るものづくりを実践しています。環境への挑戦を続ける姿勢は、地域の未来を走るレバンテフジ静岡とも重なります。



富士まつりでは選手と一緒にレバンテポーズ

レバンテフジ静岡から一言

富士山サイクルロードレースでの古紙回収活動やサイクルツアーなどを通じ、地域に根ざした活動と一緒にできることをうれしく思います。環境への想いを共有しながら、これからも地域を盛り上げるパートナーとして挑戦を続けてまいります。



ジャトコ株式会社

会社HP

詳しくはこちら▶



クルマだけじゃない。自転車の未来も走らせる。

世界トップクラスのトランスミッション・電動パワートレインメーカーとして、モビリティの未来を切り拓くジャトコ株式会社。近年は電動アシスト自転車用ドライブユニットの開発にも挑戦するなど、新たなモビリティの可能性を拓いています。レバンテフジ静岡への支援をはじめ、地域イベントやサイクルツアーなどを通じて、自転車文化の発展と地域活性化にも積極的に取り組んでいます。



追っかけファンが富士スピードウェイに



社員の皆さまと交流できる大切な時間。

レバンテフジ静岡から一言

レース会場でいつも温かい声援を送ってくださるジャトコ社員の皆さま、本当にありがとうございます。毎年会社へ伺うことや、冬のサイクルツアーで皆さまと一緒に走る時間を、選手・スタッフ一同とても楽しみにしています。



一緒に走ることで生まれるつながり。



アイワマネージメント株式会社

会社HP

詳しくはこちら▶



地域の安心を支え、未来の暮らしを守る。

地域の快適な暮らしを支えるアイワマネージメント株式会社。分譲マンション管理をはじめ、不動産管理、建物・設備のメンテナンス、リフォーム、保険代理店事業など、幅広いサービスを展開しています。1984年の創業以来、静岡県を中心に「安全で快適な暮らし」を支え続け、専門資格を持つ社員による質の高い管理体制を強みに、お客様から選ばれ続ける地域密着企業として成長を続けています。

2025年版「マンション管理新聞」の総合管理受託戸数増加ランキングで全国21位にランクイン。地方都市を拠点としながら、多くのお客様に選ばれていることが高く評価されました。現状に満足することなく挑戦を続ける姿勢は、日本一を目指して走り続けるレバンテフジ静岡にも通じます。温かいご支援をいただき、大切な共闘パートナーです。



レバンテフジ静岡から一言

日頃より温かいご支援をありがとうございます。皆さまの応援があるからこそ、私たちはレースに挑戦し、地域に根ざした活動を持続することができます。これからも「共闘パートナー」として、ともに歩んでいくことを願っています。



世界を支える一本のねじ。 未来をつくる一人ひとり。

ステンレスねじをはじめ、チタンねじや特殊ねじの設計・製造・販売を手掛ける興津螺旋株式会社。国内トップクラスの技術力を誇り、ものづくりの現場を支える"一本のねじ"を世界へ届けています。

近年は、女性社員によるプロジェクト「ねじガール」を通じて、ものづくりの魅力を積極的に発信。工場見学や展示会、SNSなどを通じ、業界のイメージを変える挑戦も続けています。また、レバンテフジ静岡には競技用チタン合金ボルトを提供。軽量かつ高い強度を誇るボルトが、選手たちのバイクを足元から支えています。技術力で挑戦を支える、心強い共闘パートナーです。



工場見学でねじ作りを学びました



皆様と一緒にレバンテポーズ

レバンテフジ静岡から一言

昨年は選手たちが工場を訪問し、一本のねじに込められた高い技術と、ものづくりへの情熱に触れることができました。競技用チタン合金ボルトは、私たちのバイクを支える大切なパーツです。これからも技術と走りで、ともに挑戦を続けていきましょう！



ものづくりで地域を支え、スポーツで未来を応援。

変電関係及びホイスの製造を中心に、高精度な製缶溶接技術で社会インフラを支える(株)エノモト工業。創業以来培ってきた確かな溶接技術を強みに、お客様の要望に応える製品づくりを続けています。地域社会とのつながりを大切にしており、地域イベントへの参加やスポーツ支援など、様々な社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

レバンテフジ静岡へのスポンサーシップもその一つで、地域に夢や感動を届ける活動を応援し、スポーツを通じた地域活性化に貢献しています。



未来に誇れる仕事を、一つひとつ。

レバンテフジ静岡から一言

地域スポーツの価値を信じ、私たちの挑戦を支えてくださりありがとうございます。皆さまのご支援が、選手たちの大きな力になっています。これからも地域に夢と感動を届けられるよう、一戦一戦全力で走り続けます。



代表メッセージ

スポンサーのみなさまへ



レバンテフジ静岡GM
二戸康寛

みなさまの暖かいご支援があるからこそ、私たちは全国そして世界へ挑戦することができます。一つひとつの応援が選手たちの力になり、チームの成長につながっています。これからも地域とともに夢と感動を届けられるチームを目指してまいります。引き続き熱いご支援をよろしくお願いいたします。

共闘パートナー募集！

一緒に地域を、元気にしませんか？

レバンテフジ静岡は、地域とともに挑戦するパートナー企業を募集しています。



地域貢献・社会貢献



健康経営の推進



社員の交流・福利厚生



企業ブランド認知向上

